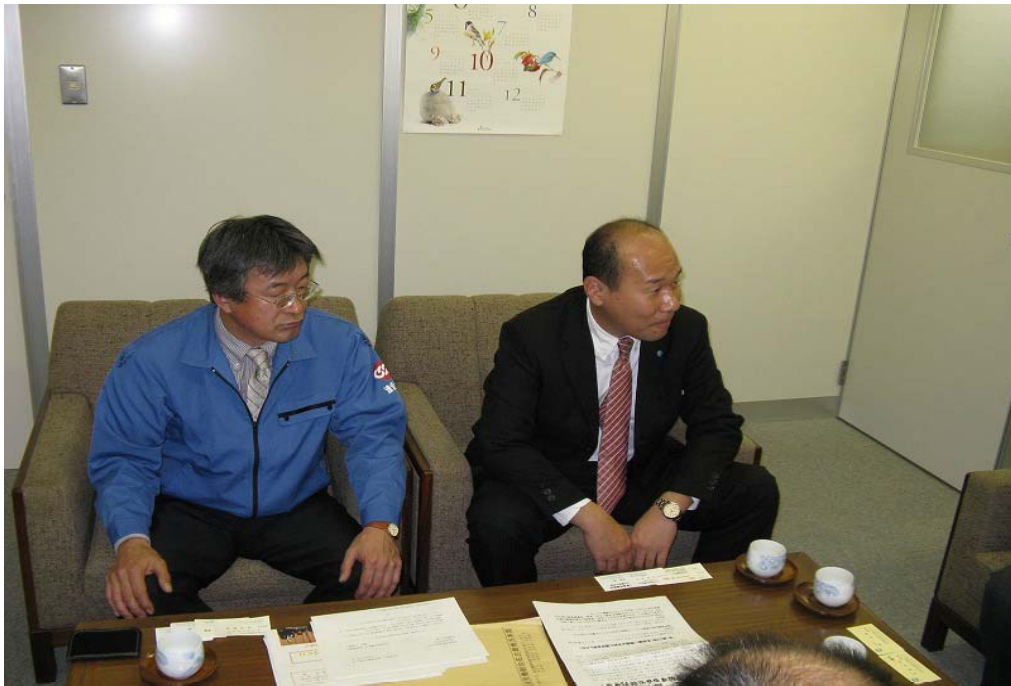


名松線廃止反対シリーズ 5

連合三重へ要請訪問



連合三重の土森会長（右）と林事務局長

JR東海労本部、名古屋地本は1月13日三重県津市の連合三重を訪問し、JR東海会社が一方的に強行しようとしている、名松線の一部廃止に対し、労働組合として地域住民の足を守るべく公共交通の必要性、これまでの会社の姿勢、安全問題、労働条件、など多岐に亘って、要請と意見交換を行ってきました。

土森会長は「JR東海の経営施策はあるが、家城駅以遠の地域の人たちは鉄道の必要性を訴えている。津市長も復旧存続を言っている。現在バス代行輸送となっているが、利便性が悪くなったと聞いている。この先バス自体もいつ打ち切られるかもしれない。非常に危惧をする。」と話され、理解を示して頂きました。

**私たちは労働組合として、
地域住民の足と、労働条件を守るために闘います。**